

●**県外研修 紀伊半島大災害復旧視察** 8・9日 熊野川中心に 紀南河川国道事務所 及び紀宝町和歌山河川局の案内解説で深く学習を行った。8日は終日雨が降るとのことで、参加者全員が長靴を準備して出かけました。8時30分に新田辺駅を定刻に出発、一路瀨八丁のジェット船発着場目指して山道を疾走、予定時刻に10分程度遅れて到着、国交省紀南河川国道事務所の〇〇さん

の出迎えを受けて、日足地区^{ひたり}に向かう。此处は名前があらわすように浸水が日常的に引き起こされているところで、浸す(ひたす)ということを表している場所で、先の災害では中学校の体育館の屋根の先が見えるだけという10mの浸水が発生した場所だった。バス停に駐輪場の屋根があったので雨をしのいで説明を受ける。続いて熊野三山の一つである速玉神社の横の熊野川河道掘削現場を訪ねた。毎年河道をしっかりと掘削して河床の引下げが行われている。しかし1年たてば元の河原に戻ってしまってくるので、毎年繰り返して河道掘削を行っているとのことでした。熊野川は巨大な土砂を供給する川であることが強調された。まさにイタチごっこを繰り返していると説明があった。続いて市田川水門に回った。熊野川の水位が上がると自動的に水門が締まり、内排水の排出ポンプが動き浸水を防止している装置であった。次に輪中堤に囲まれた相野谷川の高岡地区を回った。6年前には10mの浸水が発生し以前は30軒の民家が、浸水後3〜5軒になっていた。住宅は十分生活ができているがわずかに残るだけであった。初日の最後の予定は三重県の紀宝町役場の防災タワーで町職員から詳しい防災対策の説明を受けた。話をお聞きして各自の地元での防災の取組みに大きな後れを感じた。紀宝町の人口は12000人で町職員は120人という規模なので、地域のみならず職員もみんなで防災対策を実施しているとのことだった。

夕食時に那智勝浦町の議員津本芳光さんから那智勝浦町の歴史と課題のお話を聞いた。高齢化が約40%に近づき後継者に悩んでいること、そして優れた遺産を持っているが思うように町おこしができていないことなどが話された。しかし勝浦のマグロは本当に美味しいと強調された。

翌日は那智川防災センターで和歌山県職員から土砂災害対策の説明を受けた。また土砂防災堰堤の建設での工夫を聞いた。この工夫を模型でわかり易い解説があった。急峻な山での樹木と共に土砂が流れ下るので土砂止め堰堤に工夫を凝らして対策を進めていると説明があった。これで予定した視察が11時30分で終了。続いて那智山と那智の滝を見学。帰り道に那智大権現に寄り道をした。帰路についたのは13時50分だった。17時前に京田辺に到着。長いドライブの県外研修会であった。しかし浸水増水の現場、そして土砂災害現場の復興工事が真剣に実施されていることを知った。急峻な山と全国屈指の降雨地域での災害現場を訪ね、学ぶところが多くあって、いい研修会であった。熱心に解説いただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

●**里山農園に新入会員の津川さん 耕運機運び込み 意欲満々** 過日事務所を訪ねてこられてご入会頂いた津川さんは加茂町小谷での除草の集積に参加いただきました。そして金曜に来訪いただき南山城村で使っている耕運機を里山農園に運び込みたいがどうかと相談があった。乗る耕運機は足元がすぐれないと危険があるので、里山農園では、軽くて扱いやす耕運機が必要ですので、ぜひお願いしたいと話しました。早速元職場の同僚にお手伝いをお願いしていただき、月曜日11時に農園に運び込んでいただきました。農機具に詳しい小川さんに見ていただくとこれは古い耕運機より新しくしっかりしている。馬力も以前のものより一段階強力ですと評価をいただきました。農園に誰でも使えるすごい機械が投入されました。大いに威力を発揮していい農園にするために頑張っていたいただきたいと思います。大いに期待しましょう。

●**小林慧人君 マレーシアで現地調査に参加** 10日に帰国され翌日に事務所に来所 赤道直下で雨季と乾季しかなく冬がないので樹木の生長が一年中継続し、成長の止まる冬がないので年輪が

形成されないこと、スコールがあり、樹木の生長がはやく高く成長する等お話されていきました。特に中国人系の人が多く進出されている、電気も時々停電する等、日本では考えられない経験を話しておられました。

●**地域説明会 最終回は3月18日(日)木津川市山城町「アスピア・大ホール」100枚のパネルを展示**

2月12日から始めた連続5回の最終回を迎えます。最も大きな会場で里山の会が最も訴えたいものを展示いたします。ぜひご覧になってください。ガイドは山城地域で有名な郷土史家の中津川敬朗先生にお願いしています。また、里山の会の主力メンバーがパワーポイントを使って、活動を紹介いたします。多くの皆さんにご覧になっていただきたいと思います。閉館時間は16時で、撤収に取り掛かります。早い目にお越しください。

●**カスミサンショウウオ 10月8日 卵囊8個発見** 野村さん撮影 春の目覚めと同時にカスミサンショウウオの卵囊が発見されました。里山の会の生き物関係の野村治さんが撮影されました。成体は今年発見できませんでしたが、卵囊が3年連続して見つかりました。確実に命がつながっています。

京都府が絶滅の恐れのある生き物として指定されていて、やましろ里山の会が保全観察の役割を引き受けています。17日には観察調査会を行います。里山農園にご集合ください。またオオムラサキの生息条件を整えるためにコナラやクヌギ、ヤナギの植樹を行う計画です。お手伝いにお越しください。集合は10時で、15時には解散予定です。前近畿大学教授の桜谷保之先生にご指導をいただきます。しっかりした靴、雨対策も必要かも、移植ごてもご持参ください。当然弁当とお茶をご用意お願いします。

●**里山農園で除草の焼却処分** 13日10時から15時頃まで 大村さんと森島さんが昨日(13日)焼却処分を行っていただきました。午前10時に着火して完全に終了したのは3時頃でした。白い煙が立ち上り、すっかり燃え尽きました。ご苦労様でした。

●**里山農園で日本アカガエルの産卵が始まる** 両生類の産卵はこの時期に行われるようです。アカガエルもレッドデータブックに掲載されているようです。農園では普通に生活しているようです。しかし、アオサギが毎朝飛んできて昨年は前部食べられてしまいました。それでも今年も産卵が見つかって、したたかさを示しています。少し安心ですね。

●**自然環境保全京都ネットワークの新年度総会が21日午後1時からキャンパスプラザ(京都駅前中央郵便局西)で開催されます。** 年度総会の後、参加団体の皆様の活動紹介があり、引き続き「自然を楽しむ」として、自由発言の時間があり、各団体の活動紹介を行います。こぞってご参加を下さい。

●**24日午後1時、2017年度第3回理事会が京田辺市中央公民館で開催** 理事各位のご出席をお願いします。

●**淀川河川事務所に業務報告書提出し報告を実施** 2017年度に河川協力団体として木津川希少植物生調査管理業務を受注、報告内容は、木津川管内に27か所14000㎡の広さに生育する希少植物の調査と除草作業を実施した結果をまとめたものです。播川理事長に深田前理事長、山村常務理事が同行します。この取り組みは、近畿地方整備局管内で最初に発注された業務でした。生育調査には伊藤さん近藤さん山下さん白木さん中村さん高田さん、そして除草業には芳川さん津川さん有田さん深田さん播川さん青代さん森島さん金田さん大村さん達のご協力をいただきました。ありがとうございました。

●**3月植物観察会 3月23日(金)八幡背割堤駐車場9時半集合です**

詳しいことはホームページトップページをご覧ください